

# 博士学位論文審査報告書

2024年2月11日

申請学位： 博士（国際開発）  
学位申請者： バッタライゴパールプラサド BATTARAI GOPAL PRASADO  
所属： 国際協力学研究科国際開発専攻博士後期課程 3年 G9D7062019

論文題目： Rationalizing ODA with the adoption of CDD approach  
和文題目： CDD アプローチの採用で ODA を正常化する

審査委員会： 主査 国際学部教授 佐原隆幸  
副査 国際学部教授 吉野文雄  
副査 国際学部教授 甲斐信好  
副査 国際学部教授 新田目夏実

## I 論文の要旨

CDD (community driven development) アプローチの採用により、資金の使用状況の改善、女性及び少数民族の参加の促進、汚職の減少などポジティブな効果をもたらされた。この手法はアジア開発銀行及び世界銀行でも採用しており、今後もそのポジティブな効果にかんがみこの手法が主流となると考えられる。

## II 論文の構成（目次）

全8章

第1章：ODAのアプローチの変遷とCDD (community driven development) 発生の起源。CDDの前提と重要な概念の説明。

第2章：CDDの先行研究の紹介。識者の意見、本論文、学術書などから先行研究の概要を紹介。

第3章：今回の研究の目的、研究で問いただした質問事項、仮説、方法そして対象について紹介

第4章：過去に供与されたネパールへのODAの変遷、ネパール農村のエリートの影響、CDDの包摂性の評価について指摘。従来の手法と現行のCDDとの相違点。

第5章：globalな手法により実施されたプロジェクトの成功と失敗の分析。CDDの

より詳しい解説と詳細な分析。事例研究により、CDD が参加を促すか、住民の能力強化につながるか、透明性の向上につながるかを議論。

マイクロファイナンスとの関連を過去の評価報告書にさかのぼって分析。その過程で様々なドナーの評価報告書に言及。

第6章：二次資料を使った他の国における CDD の事例の確認と事例研究の説明

第7章：インタビューとレビューを活用した事例研究

第8章：フィールド調査から得られた結果をもとにした議論の整理、ファインディングの要約、および要約に基づいた政策提言。

### III 論文（各章）の概要

第1章：ODA のアプローチの変遷と CDD (community driven development) 発生の起源。CDD の前提と重要な概念の説明。

第2章：CDD の先行研究の紹介。識者の意見、本、論文、学術書などから先行研究の概要を紹介。世銀の事例をインドネシア、ケニア他の国に当たり渉猟。それらがどのように評価されているかを確認している。

第3章：研究の目的、研究で問いただした質問事項、仮説、方法そして対象。研究の最大の目的は CDD がネパールの農村社会でも有効かを問うことである。そのため ADB の酪農プロジェクトを選定。インタビュー表の作成と説明。インタビュー相手（利害関係者）の確認を行った。また関係者ごとに質問表を変え、その役割ごとにデータを得るよう努力している。これは同時に二次資料による裏付けとも連動している。

第4章：過去に供与されたネパールへの ODA の変遷、ネパール農村のエリートの影響力、CDD の包摂性の評価について 従来の手法と現行の CDD との相違点。ODA は着実に増加しつつある。特に②010—2020年の間は年率20%以上で拡大。総計20億ドルに達している。金額も1960—1970（インフラ投資の時代）の累計の3倍に増加。それだけに正しく受益者が選定されることの重要性を述べている。

第5章：global な手法により実施されたプロジェクトの成功と失敗の分析。失敗例としてはアフガニスタン。イスラムの教えにより、女性の社会進出が阻まれたのが原因。CDD のより詳しい解説と詳細な分析。事例研究により、CDD が参加を促すか、住民の能力強化につながるか、透明性の向上につながるかを議論。マイクロファイナンスとの関連を過去の評価報告書にさかのぼって分析。その過程で様々なドナーの評価報告書に言及。

第6章：二次資料を使った他の国における CDD の事例の確認と事例研究の説明。世銀を中心に過去の評価報告書を渉猟し、どのような効果が出ているかを確認している。

第7章：インタビューとレビューを活用した事例研究。ADBの酪農プロジェクトに焦点を当て、関係者ごとに質問表を作成。一次資料の取得をデザインしている。質問表は付録として掲載されている。後に続く研究者への配慮が読み取れる。

第8章：フィールド調査から得られた結果をもとにした議論の整理、ファインディングの要約、および要約に基づいた政策提言。

この章では一次資料、2次資料を動員して議論を整理。従来王室と密着したローカルエリートが資金管理の不適切な扱い（汚職）、身内を優先させて受益者を選ぶ（結託及びネポティズム）などが一掃されたことを論証した。スハルト政権末期に学生たちが要求したKKN（汚職・結託・ネポティズム）撤廃運動にも似てきた。CDDの採用はネパール農村社会で受け入れられるかがこの論文の最重要の命題であるが、著者はこれを見事に論証したと言えよう。中国の文化大革命は多大の犠牲者を出して終焉を迎えたが、ネパールではドナーの後押しにより国王の権限の制限、ローカルエリートの汚職・結託・ネポティズムの撤廃に静かに成功したことを著者は描き切っている。重ねて説明する。資金管理の透明性の向上、ローカルエリートの資金管理の透明性の向上、本来の受益者であるべき女性や少数民族の受益者としての選定、および資金管理能力の強化。これらがCDDの採用により実現したことを描き切っている。それゆえに著者の政策提言には一定以上の説得力がある。

#### IV 論文の総合評価

##### 1. 論文提出から審査までの経緯

吉野教授、新田目教授、甲斐教授の3名で受理審査委員会が構成され、結果は12月下旬メールにて関係者に伝達された。

##### 2. 審査所見

一次資料、2次資料を動員して議論を整理。従来王家と密着したローカルエリートが資金管理の不適切な扱い（汚職）、身内を優先させて受益者を選ぶ（結託及びネポティズム）などが一掃されたことを論証した。スハルト政権末期に学生たちが要求したKKN（汚職・結託・ネポティズム）撤廃運動にも似てきた。CDDの採用はネパール農村社会で受け入れられるかがこの論文の最重要の命題であるが、著者はこれを見事に論証したと言えよう。中国の文化大革命は多大の犠牲者を出して終焉を迎えたが、ネパールではドナーの後押しにより国王の権限の制限、ローカルエリートの汚職・結託・ネポティズムの撤廃に静かに成功したことを著者は描き切っている。いわば草の根で静かに変革が実現したわけだ。重ねて説明する。資金管理の透明性の向上、ローカルエリートの資金管理の透明性の向上、本来の受益者であるべき女性や少数民族の受益者としての選定、および資金管理能力の強化。これらがCDDの採用により実現したことを著者は当初の想定以上に描き切っている。それゆ

えに著者の政策提言には一定以上の説得力がある。CDDは衆人環視の下でODAの資金を監視する仕組みであり、結果としてガバナンスの向上、女性及び少数民族の能力強化及び参加促進という側面を持つことが証明された。草の根レベルでの民主化の実現をこの論文は、当初の想定以上に描き切っている。

### 3. 審査委員会結論

委員全員が一致して学位申請者に対し、「博士（国際開発）」の学位を授与するに値するものと認めた。

以 上